

- 1 開催日時 平成26年4月18日(金) 18:00~20:00
- 2 会場 都庁第二本庁舎 30階 教育委員会室
- 3 出席者 巽委員長、高野副委員長、米山委員、藪長委員、諏訪委員、善養寺委員、柳沢委員、志村委員、田谷委員、徳田委員、加藤秀次委員、丸山委員、浦部委員、武田委員、堤委員、加藤裕之委員、金子委員、出張委員

4 会議要旨

(1) 第3回会議要旨の確認

- ・資料の内容で第3回会議要旨として決定としたい。

(2) 農業・工業・産業の検討

<農業>

- ・畜産科は多摩地区(瑞穂農芸)にしかなく、区部の生徒が通学しにくい。匂いの問題があり、住宅地には増やしづらい。
- ・寮を作ることで、区部のニーズに対応できると思う。
- ・区部の中学生の畜産希望生徒の把握も必要ではないか。
- ・プロの飼育員がいる動物園の実習期間を増やせるとよい。園芸高校の動物科では現在は3日間実施している。
- ・デュアルシステムについてはある程度時期を集中させる必要がある。
- ・全国の農業校長会主導でマイスター制度が検討されている。
- ・農業は農家での農業体験だけでなく農産品加工などの企画も重要だと思う。

<工業>

- ・工業は安全を重視しており、厳しい指導に合わない生徒もいる。
- ・練馬工業高校はエンカレッジスクールに指定されており、現在、成果が出てきている。
- ・エンカレッジは「学び直し」をするので、資格取得など専門性を重視してカリキュラムを工夫しないと専門教育が薄まる。
- ・エンカレッジは普通科のイメージがあり、別名称を検討することも考えられる。
- ・座学が苦手な生徒を対象に、実習を中心に学ぶ学校のイメージ。
- ・デュアルシステムの取組方法については、企業への負担を考慮して再検討すべき部分がある。
- ・業務に関する報告などにおいて、文章能力が低いのは問題である。
- ・作業日報など、実際の企業で毎日必要な業務を、高校でも課すなどの指導

があると、企業としては評価しやすいと思う。

- ・ 工業だけでなく、何が合ったのか状況を説明できない中学生・高校生は多い。
- ・ 3年次の「課題研究」の授業で、チーム毎に1年間取り組むテーマを決め、共同研究し、パワーポイントでプレゼンテーションをさせ、全都的にプレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の向上に取り組んでいる。
- ・ プレゼン能力よりも対人コミュニケーション能力が重要である。
- ・ サービス業経験者は、コミュニケーション能力が訓練されているので、未経験でも工業の仕事での成長が早いし、企業も育てやすい。
- ・ 「物を作れば売れる」時代は終わり、考えながら物作りをする時代になってきているので、ロジカルシンキングが必要である。
- ・ 専門学科を細分化し過ぎると教員の配置で流動性が失われるのではないか。
- ・ 製造業では他にも規律性、向学心、人を巻き込む力、主体性が必要と考える。社会人基礎力が必要と思われる。

<産業>

- ・ 八王子桑志高校のクラフト科はデザイン科と一緒に、作るだけではなく、販売促進や流通までの実践に取り組むことも考えられる。
- ・ ただ売るのではなく「どうやったら商品価値を高めビジネスにつなげるか」を考える創造力や発想力のある人材が求められている。
- ・ 志を高めていくため、トップリーダーや社会で活躍している方の話を聞くのは良い。

(3) 全体の方向性

- ・ これからの産業界を担う人材として、企画力や創造力が必要である。
- ・ 創造性とか問題解決能力などの育成も必要である。

(4) 専門学校との連携した資格取得

- ・ 調理師免許の資格取得について専門学校との提携により、単位互換、免許取得だけでなく、異年齢の集団での学習に、より良い刺激を受けている。
- ・ 就職の際も専門学校に入学していることから、専門学校に来ている求人先に就職することができる。ホテルやレストランも、より若い年齢の生徒の方が鍛えがいがある。
- ・ 専門学校との提携による免許等を取得していく方法については、他の学校にどのように広げていくかは検討が必要である。

(以上)